

南風

南風（ふえー）

琉球大学医学部医学科同窓会報Vol.15No.2

〒903-0125 沖縄県西原町字上原178番地 サンテラス屋良T-3

TEL&FAX 098-944-7445

E-mail:i-dousou@nirai.ne.jp

URL:http://www.geoweb.ne.jp/medical/

琉球大学医学部医学科同窓会発行

2008年1月18日

印刷 沖縄ココエ印刷



第15回 琉球大学医学部医学科同窓会 通常総会の報告

琉球大学医学部医学科同窓会会長 増田 昌人（2期生）

今年度の同窓会通常総会（第15回）は平成19年7月28日（土）午後7時よりラグナガーデンホテルにて行なわれました。総会に引き続いて午後8時より会員懇親会が開催されました。総会・懇親会に34名の参加者がありました。

今年度総会の議事では、前回総会議事録の承認に続き、報告事項9項目についての報告が担当者からありました。特に、（1）評議員会を定例化すること、（2）個人情報保護規定を制定すること、（3）同窓会ホームページを会員掲示板、求人情報、ネットワーク作り、人材バンク等の構築が可能なものへ改善したこと、（4）平成21年8月開催予定の第61回西日本医科学生総合体育大会の主管校としての準備に関することが報告されました。

審議事項としては、第1号議案平成18年度事業報告に関する件、第2号議案平成18年度収支決算に関する件、第3号議案平成19年度事業計画案に関する件、第4号議案平成19年度予算案に関する件が承認されました。

第5号議案の各支部への助成拡充に関する件では、新たに各支部へ3万円の支部会開催の助成金が送られることになりました。第6号議案の役員および事務局からの次期評議員選任時の助言に関する件では、現評議員が離島や県外に赴任して評議員の職務を遂行できなくなった場合には、事務局がその後任探しを助言、協力できることとなりました。

第7号議案の会員データの提供に関する件は、評議員会で継続審議となりました。

第8号議案の学生会員に対する正会員に

よる進路相談員制度に関する件、第9号議案の会則の改正に関する件は原案通り承認されました。

第10号議案として新役員体制として会長、副会長、会計が留任、監査が宮良美代子さん（1期生）と外間宏人さん（1期生）から大湾勤子さん（1期生）と松崎俊博さん（2期生）に代わり、今後2年間、その任に当たることが承認されました。

それぞれの審議事項に関して、正会員から活発な意見や提案が出され、有意義な総会となりました。

午後8時からの懇親会には、来賓として琉球大学同窓会副会長與儀憲徳先生（琉球大学名誉教授・元法文学部長）、特別会員として安澄文興先生、高良宏明先生、加藤誠也先生にご出席いただき、さらにご挨拶を頂きました。

今年も学生評議員が多数参加し、若々しい同窓会の懇親会となりました。来年の総会での再会を期して閉会しました。



総会・懇親会スナップ



総会のようす



増田昌人 同窓会会長



受付は学生さんで～す



安澄文興先生



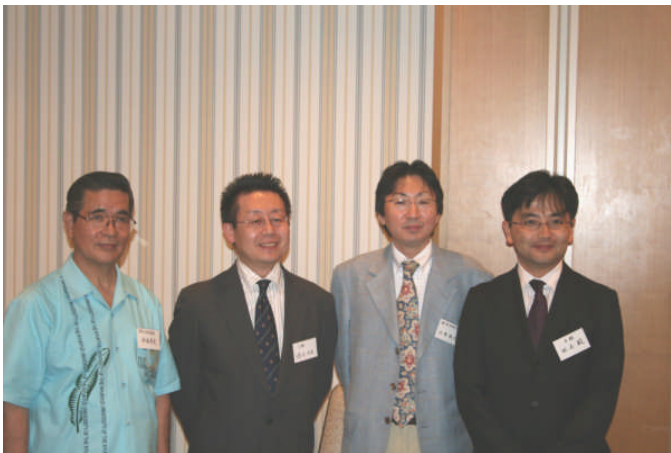
高良宏明先生



加藤誠也先生



與儀憲徳琉球大学 同窓会副会長





懇親会のようす

講座紹介



脳と心

高次機能医科学講座 精神病態医学分野
医局長 菅野 善一郎

近藤毅先生が新教授に就任され4年目となる今年度は、当講座開講23年目に当たり、同門会も20周年を迎えました。医局は非常に若々しくエネルギーで活気に満ちあふれ、明るくアットホームな雰囲気、診療に、研究に、教育に奮闘している近藤先生の背中を見ながら研鑽に励んでおります。

さて、皆さんは精神疾患、精神医療についてどのような印象をお持ちでしょうか。理解しづらく、とっつきにくいというイメージが強い方も多いかもしれません。私は、講義を始める時に学生達に対して「統合失調症は脳の病気だと思いますか、それとも心の病気だと思いますか」という質問をします。統合失調症に限らず全ての精神疾患についても同様ですが、治療が必要となるいろいろな言動を脳の問題なのか心の問題なのかを分けて考えた上で戦略をたてていくことが、臨床においてはしばしばあります。僅かなことですがそういった対応のコツを伝えていくことで、精神疾患に対する苦手意識を減らし、より理解を深めていけるよう考えているところです。

臨床研修制度が導入されて3年がたちました。研修医が外に出るようになったことで一時的にせよ新入局者が激減し、結果的にこの2年間は定員割れでの医局運営を余儀なくされました。一番しわ寄せがいき易いのは研究面なのでしょうが、むしろ大いに前進しており心強い限りです。近藤教授を筆頭として向精神薬の遺伝学的・生物学的反応を調査する精神薬理グループ、うつ病の自殺予防がテーマの社会精神グループ、そして精神疾患と脳機能形態を探る精神生理グループの3部門があります。このところは



若手を中心に国内外での学会発表をさかんに行っており、この盛り上がり根付き、伝統となっていくといいなと思っています。大学院ならではの研究施設としての機能を

発揮することで県内全体の精神医療のレベルアップに直結していくことが期待されるからです。

今後新しく入局してくる若手の先生たちに対しては、教育や指導をしていくのみならず真似をしたいと思われるような姿勢を保ち続けたいものです。



耳鼻科医局リニューアルオープン

耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野
又吉 宣 (15期生)

皆さんこんにちは。15期生の又吉宣です。今回は耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座の紹介をさせていただきます。平成18年より前任の東野哲也教授に代わり鈴木幹男教授が赴任されました。鈴木教授は臨床面では耳科手術、鼻内内視鏡手術、頭頸部外科手術など耳鼻科の手術範囲をかなり広くカバーされ、また研究面では突発性難聴の坑内耳抗体やメニエール病の病態解明、頭頸部腫瘍発生に關与するウイルスの研究などいろいろなテーマをもっていらっしゃいます。これまでの耳鼻科の先生に対するイメージと違い、鈴木先生は何でもできる、いろんな経験をしてきた先生、といった印象です。

その影響を受けて去年より当科の外来が専門外来中心にリニューアルされました。それぞれの先生が中耳炎・顔面神経外来、人工内耳・幼児難聴・補聴器外来、難聴・めまい外来、鼻副鼻腔・アレルギー外来、甲状腺・頭頸部腫瘍外来、嚥下・音声外来、形成・外傷・味覚外来（全て名前が長い！）を担当し専門性を生かした診療を行っております。特に新しいのが、喜友名先生が担当されている嚥下・音声外来です。院内からの紹介だけでなく他院からの紹介患者様も増えています。

研究の方は2名の大学院生が基礎医学のサポートをうけて実験を行っているほか、1人が県外の大学院へ行っています。また、今年の10月より中国からの留学生、_先生が加わり日本語、英語、中国語の入り交ざったディスカッションを行っています。

医局員は現在学内に10人いますが、その他に多くの先生が県内の関連病院で勤務され大学病院と連携を取りながら診療をされています。また2人の先生が草津総合病院頭頸部外科センター、愛知県がんセンター中央病院といった全国でも有名な施設で勤務されています。また新たに4月から京都大学医学部形成外科講座に行くことが決まった先生もいて、この先生方が帰ってくる時は耳鼻科はさらにパワーアップすることと思います。

残念ながら今の学内は人が足りない状態ですが、医局員同士協力し合い業務に励んでおります。学会や研究会などで県外に行く(病院を空ける)機会が多いのですがそんな時、「もう少し人が増えて√くれたらなあ」、と思います。研修医の先生方をはじめ、興味のある方は耳鼻科を訪ねてみてください。耳鼻科の先生方は(私も含め?)一見とっつきにくそうな人が多いように思えますが、実際はとても気さくで個性的な(いい意味で)人が多いと思います。という事で耳鼻科を宜しくお祈りします。

開業報告

勝連城の丘近く (南原小学校校歌より)

とくだ心療内科
徳田 毅 (9期生)

同窓会の諸先輩方、先生方、同窓会スタッフの皆様はじめまして。

私は徳田 毅 (つよし) と申します。9期生で、ハンドボール部や地域医療研究会に所属していました。この度ご縁があり、この南風にて開業報告をさせていただく事になりました。自己紹介と、開業に関する想いやクリニックの事について述べさせていただきたいと思います。

私は旧具志川市、現在のうるま市の出身です。うるま市は、具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併した人口10万の街です。そのうるま市には、世界遺産にも登録された勝連城跡があります。勝連城跡は、阿麻和利という地元の英雄が活躍した由緒ある城跡です。その城跡の麓に、南原小学校という小さな学校があります。学校の周りはサトウキビ畑かキャベツ畑しかなく、各学年一クラスしかありません。必然的に学校中の生徒が、みんなお互いを知っています。宮崎駿のアニメ映画に出てきそうな、のんびりした小学校です。私はその小さな小学校で育ちました。

小学校の頃、学校の先生から阿麻和利の話をよく聞かされました。阿麻和利は、15世紀前半頃に民衆と共にクーデターを起こし、勝連城10代目の城主になった人物です。人情味あふれ、野心家。あの首里城さえも攻め入ろうとしていた人物です。残念ながらその野望は絶たれましたが、地元では今でも英雄として扱われます。

そんな話を小学校の先生から聞かされるたびに、根が単純な私は「阿麻和利みたいに勝連城の主 (ぬし) になりたいなあ」と大それた事を考えていました。

勝連城みたいに大きな城でなくても、阿麻和利みたいに大英雄でなくても、自分の城を持ちたい。これが私の、開業の原点でした。そして開くからには、地元にとだわりたい。我が母校、南原小学校の校歌にあるように、”勝連城の丘近く” に建てたいと思うようになりました。

あれから30数年。医師免許を手にして12年。念願の、勝連城の丘近くのうるま市江洲に、とくだ心療内科というクリニックを建てる事ができました。私とスタッフを含め、5人程度の小さなクリニック。ですがこれでも城は城です。小さな頃、友人とかけっこしたときにふと見上げた勝連城跡。その麓で自分の城を構えることができました。感慨深いものがあります。

最後になりましたが、とくだ心療内科はうるま市江洲、メイクマン隣にあります。標榜科目は心療内科・精神科・神経科です。薬物療法だけでなく、認知療法や漢方医学も取り入れて診療を行っております。諸先生方へのご挨拶をもって、開業報告とさせていただきます。

同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



放射線腫瘍医になって

放射線医学

玉城 稚奈 (15期生)

同窓生の皆様、はじめまして。2001年卒業の玉城稚奈と申します。私は、琉球大学卒業後、放射線科に入局し村山貞之教授の下で今年7年目になりました。1年間は那覇市立病院放射線科で研修をさせていただき、その後6年間はずっと琉大病院に勤務しています。

入局後6年目に放射線治療専門医資格を取得し、日々、外来と病棟業務に追われています。琉大には放射線治療医は私を含めて、戸板孝文准教授、小川和彦准教授の3人であり、若輩者ながら人員不足のため病棟医長になっています。時々、会議に出席しなければならないのですが、まわりは10年目以上と思われる先生方に囲まれて、非常に場違いな、居心地の悪さを感じてしまいます。

近況といえば、私は2008年1月から県外へ研修に行くことが決定しました。来年春に、放射線治療機械（リニアック）の更新があり、そのため、技術習得のための研修です。機械の精度が上がれば、定位放射線治療などの、より高精度で、



より副作用を減らした放射線治療が出来るようになります。研修で高度な技術を得たい希望と同時に、沖縄県外で生活したことのない私は、どんな生活になるのか、とても楽しみです。内地の寒さに耐えられるか？毎日の満員電車は大丈夫か？などの不安が少しありますが、寒い中での屋台や、雪景色など、ワクワクもしています。

いつか、国外でも生活してみたいと思って、英会話も少しずつ勉強していました。皆さんもご存知のNOVA駅前留学です。社長解任、倒産のニュースは衝撃的で、被害を被った生徒の1人です。株の大暴落で大損をした人の気持ちってこんな感じなんだろうか・・・なす術もありませんでした。テレビで豪華な社長室が報道された時は、怒り心頭でした。

このような感じで、日々が忙しく過ぎていきます。話は変わりますが、放射線治療にこられる患者さんの大部分は悪性腫瘍の方で、全身状態が悪い方も多く、私一人で全身管理をしていくのが困難なことが多いです。そのため日頃から全科の先生方にお世話になっており、この場をかりてお礼申し上げます。“本当にありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。”

最後に、この機会を与えていただいた、15期生の又吉宣氏に感謝いたします。

東日本支部だより

第17回 東日本支部同総会の報告

支部長 山中 秀峰 (4期生)

第17回琉球大学医学科東日本支部同窓会が平成19年6月24日（日）に、上中里のミヤリサンホールで行われました。

今年は、恩師の先生、卒業生など、17名の参加があり、元公衆衛生学教室の赤松 隆 教授より御講演をいただき、楽しく有意義な時間を過ごしました。

同窓会は、大学から遠く離れた場所で働く卒業生にとって、とても有意義な情報交換の場であります。来年はより盛会にしたいと思っております。ごちそうや沖縄グッズ、お土産も準備してありますので、同窓生を誘って、あるいはお子さん連れでも構いません。是非御参加下さい。お待ちしております。来年の予定は下記の通りです。

日 時：平成20年6月29日（日）

午後2時～5時

場 所：北区上中里1-10-3

ミヤリサンホール

会 費：5,000円（新卒生は無料）



同期会だより

琉球大学医学部医学科同期会パーティー

(昭和56年入学)

2007年7月7日7時、那覇新都心Suiに集まったのが最初のミーティング。伊佐勉さん、上江洌良尚さん、健山正男さん、宮良美代子さん、島袋の5名。みなさん各地で活躍しているのは知っているが、この面子で顔を揃えるのはほぼ20年ぶりだった。お互いの近況を話して盛り上がりながらも、本番に向けタイムコースを手際よく作っていった。

案内文の抜粋。このたび、昭和56年医学科入学の私たちはついに卒後20周年を迎えました。皆様にとっての卒後20年はどのようなものだったでしょうか？仕事や家事あるいは他の様々な方面でご活躍のこととお察しいたします。つきましては来る10月6日午後7時より、近況報告と親睦を兼ねた卒後20周年記念パーティーを開催したいと存じます。パーティーは県内外在住の発起人メンバーが中心となり、別紙要領で開催するべく準備を進めています。

多くの同期生がご参加下さり、学生時代にタイムスリップして楽しい貴重なひとときを共有したいと考えています。なにかとご多忙とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご参加頂ければ幸いです。ご家族同伴の参加も歓迎しますので、奮ってご参加下さい。

2007年7月 吉日

ともかく、昭和56年入学者全員の連絡先を八方手をつくすことから始めた。2回目、3回目とミーティングを重ね、最後はたくさんのメンバーで連絡先の分かったメンバー全員に当日の参加を誘うという電話をかけ続けた。田中秀明さんはおそらく30名以上の方に電話したのではないだろうか。忙しい中ご苦労さまでした。

10月6日午後7時、那覇テラスホテル、芝生を前にしたガーデンルーム。夕闇がせまる中、健山正男さん、宮良美代子さんの司会でパーティーが開始。西日本同窓会会長、赤木幹弘さんの乾杯の挨拶でまず大きな歓声があがった。健山正男さんが夜を徹してつくったという卒業アルバムに音楽をアレンジしたDVDの完成度も素晴らしかった。それから会場のメンバー一

となったところで、参加者全員の1分スピーチ。皆さん思い思いに、学生時代の記憶と近況を語っていただきました。

一人ずつ名前を名乗ってスピーチを始めるたびに歓声があがり会場は熱い空気に包まれた。それぞれ公私ともに味わい深い20年を送られたことが偲ばれ、感無量。学生時代と全く変わらない方。ほとんど面影を残していない方。変わらず美しい方。たくさんの友人と言葉を交わし酒を酌み交わした。あっという間の2時間30分でした。最後にとった記念撮影をご覧下さい。皆さん学生時代に比べても最高の笑顔だと思います。

参加費を払ったにもかかわらず、会場に来ることができなかつた、白井康博さん、新里譲さんから、会費を寄付していただきました。ありがとうございました。会のお世話をしていただいた、上原真知子さん、赤嶺純子さん、又吉まゆみさん。本当にありがとうございました。那覇テラスホテルの宴会場の方にも大変お世話になりました。

2次会は、那覇市松山Dar Barを貸し切り。上江洌良尚さんの司会のもと大いに盛り上がりました。それぞれのテーブルで思い思いの話題で、夜更けまで語りあいました。今度はずっと近い将来に必ず集まろうと話しました。個人的に一番うれしかったのが県外の友人達が琉球大学医学部に入学して本当によかったと話してくれたことでした。再会を楽しみにしています。

メンバーの掲示板を作成しています(現在36名参加中) http://groups.yahoo.co.jp/group/Ryukyuu_med/に直接アクセスしてグループ参加への申請をするか、mshimabukuro-ur@umin.ac.jpにメンバー参加希望のメールをお送り下さい。(文責、島袋充生)



二期生卒後20年記念新年会のお知らせ

二期生は毎年1月第4土曜日に新年会を開いてきました。
今年は卒後20年ということもあり、日程を2月の連休に変更して恒例の新年会を拡大して行なう予定です。参加をよろしく申し上げます。

2月9日（土）

午後6時から 前夜祭
午後9時から 前夜祭の二次会

カヌチャベイホテル&ヴィラズ
カヌチャベイホテル&ヴィラズ

2月10日（日）

午前 ゴルフコンペ（有志）
午後1時から 講演会、近況報告会及び学内ツアー
午後6時から 卒後20年記念新年会
午後9時から 二次会
午前0時から夜明けまで 三次会・四次会

カヌチャゴルフコース
医学部臨床講義棟1階小講義室
医学部がじゅまる会館
那覇市新都心（予定）
那覇市久茂地?松山（予定）

連絡先 代表幹事 石川守 勤務先電話098-853-3134（代）

カヌチャベイホテル&ヴィラズ 電話0980-55-8880（代） カヌチャリゾート 電話098-869-5678

運営委員会近況報告

第61回 西日本医科学生総合体育大会

運営委員長 江田 はるか

医学科同窓会の皆様、こんにちは。医学科2年次の江田はるか
と申します。今回も同窓会会報誌の紙面をお借りして第61
回西医体の進捗状況を報告したいと思います。皆様もご存知
かと思いますが、2年後の2009年度に西医体が沖縄で開催さ
れます。参加人数は約15000人、競技種目20種目、総予算お
よそ一億円という非常に大規模な大会であります。今年の京
都大学、来年の広島大学に続いて、2年後にわたしたち琉球大
学が主管することになりました。

実際に沖縄で開催できる競技は、空手、サッカー、バレー、
バドミントン、バスケ、準硬式野球、陸上競技の7競技で、参
加者はおよそ8000人になる見込みです。

一方で、沖縄は観光地であり、開催期間がハイシーズンと重な
るため、大会の準備を早期に行う必要があります。

私たち運営委員会のメンバーも大部分が決まりつつあり、
徐々に始動してきています。西医体運営の現在の状況を整理
すると、①運営委員会室の設置について、②競技場の確保、③
ホテルと航空券の確保、を問題点として挙げるすることができます。

①運営委員会室の設置について

運営委員会室設置に関して、同窓会の皆様にはご心配、ご迷
惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。諸事情より運営
委員会室は医学部構内に設置することがこんなになりましたが、
学外に設置することで調整ができました。現在は本格的に部屋
を探している状況です。

②競技場の確保について

沖縄で開催する7競技の会場の選定はほぼ終了しています。
しかし、実際に競技場の予約をできるかどうかは未だ不透明

な状況です。この問題に対して、各競技団体および市町村と
連携をとりながら進めていく方針です。

③ホテルと航空券の確保について

まず、ホテルに関しては旅行会社とコンタクトをとって宿
泊計画をたてているところです。私たちの希望としては、選
手の宿泊先を確保すること、安い料金で宿泊先を提供するこ
とを考えています。

航空券に関しては、今後航空会社などともコンタクトを
取っていきたいと考えています。航空券の場合、私たちが幹
旋することは困難なことが予想されています。一方で、選
手個人に航空券の確保を任せてしまった場合に、沖縄に
来ることができない選手が発生しかねないというこ
とも予想されます。この問題を今後解決していく必要があ
ると考えています。



簡単ではありますが、以上が現在の状況です。

複雑な問題が山積していますが、どうか温かい目で私たち
を見守ってくださることを心から願っています。また、皆様
のアイデアやお力を頂けるならば大歓迎です。どうかご協力
のほど、よろしく申し上げます。

Tobi_0_surfergirl@yahoo.co.jp

第59回 西日本医科学学生総合体育大会の結果

男子バスケット…………… 2回戦敗退
 女子バスケット…………… 2回戦敗退
 硬式テニス男子…………… 2回戦敗退
 硬式テニス女子…………… 1回戦敗退
 準硬式野球…………… ベスト16
 男子バトミントン…………… 団体 2回戦敗退
 ……………… 個人 ベスト32
 (仲本博史)
 女子バトミントン…………… 団体 1回戦敗退
 サッカー…………… 1回戦敗退
 ラグビー…………… 2回戦敗退
 男子バレー…………… 2回戦敗退
 女子バレー…………… 準優勝
 女子水泳…………… 総合2位
 200m自由形…………… 1位 (西尾沙矢子)
 400m自由形…………… 2位 (西尾沙矢子)
 50m自由形…………… 6位 (伊藤 茜)
 200m自由形…………… 3位 (西原峰代)
 200m個人メドレー…………… 5位 (西原峰代)
 200mメドレーリレー琉球A …… 5位

200mリレー琉球A…………… 2位
 400mリレー琉球A…………… 3位
 男子空手 団体組手…………… 3位
 新人戦…………… 準優勝 (佐久川裕行)
 個人組手…………… 準優勝 (湊川英樹)
 女子空手 団体戦…………… ベスト16
 男子剣道 団体戦…………… 予選リーグ敗退
 新人戦…………… ベスト8 (仲舂拓)
 個人戦…………… ベスト16 (玉城啓太)
 女子剣道 団体戦…………… ベスト8
 個人戦…………… ベスト16 (吉武伊緒)
 男子弓道 団体戦…………… 34位
 個人戦…………… 2次予選進出
 (川上毅、小国英智)
 女子弓道 団体戦…………… 30位
 陸上部 男子砲丸投げ…………… 決勝7位 (徳岡優生)
 男子800m…………… 決勝7位 (西田翔)
 男子1500m…………… 決勝4位 (西田翔)
 男子3000msc…………… 決勝2位 (都甲溪)
 男子5000m…………… 決勝5位 (都甲溪)

サークル紹介

医学部軽音楽部

わたしたち医学部軽音楽部は、男女合わせて総勢49名のサークルです。

医学科を中心として、保健学科、他学部の学生も多数在籍しています。

練習日は毎週水曜日、金曜日の16:30~20:00、毎週土曜日の9:00~17:00にがじゅまる会館3階の音楽室で行っています。名前こそ軽音楽部ですが、様々なジャンルの音楽を各バンド、個人でやっています。

先日行われた第56回琉大祭でも、ポップスやロック、ビジュアル系やメタル、弾き語りなど多くのジャンルの曲を演奏し、一日目、二日目ともに多くのお客様に楽しんでもらうことができました。また、このほかにも月に1回程度、宜野湾市長田のライブハウスK-mindで定期的にライブをしています。入場は無料なので、みなさん遊びに

来てください!!

顧問：島袋 充生 (第二内科)

部長：伊元 孝光 (3年次)

活動時間：毎週水、金の16:30~20:00

土曜日の9:00~17:00

活動場所：がじゅまる会館3階の音楽室

部員数：49名



「女子バレー部 準優勝おめでとう!!」

西医体を振り返って

喜納みちる (4年次)

今年の夏、私たち女子バレー部は、西医体で準優勝という結果を残すことが出来ました。チームの絆が深まり、最高の思い出になりました。去年・一昨年の結果は全て1回戦敗退でしたので、私達にとって今年の結果は本当に嬉しいものでした。去年の夏、悔しい思いをした大会から学ぶことがたくさんありました。どうしたら勝てるのかを、みんなで本気で考えました。その夏から1年間、私はキャプテンになりました。みんなの意識が強くなるのを感じた1年でした。

今年は1,2年生が行けなかったため、選手7人という厳しい状況での参加となりました。その中の3人が6年生であったため、最後の大会にどうしても1勝したいと思っていました。それなのに、決勝戦まで勝ち上がっていった時、信じられない気持ちでした。良かったのは、勝ってても負けてても結果を考えず、次の1点に本気で集中出来たことだと思います。それは簡単なようで、今まで難しかった大切なポイントでした。6年生と、あと1試合、あと1点でも長く一緒にやりたいという気持ちがみんなにあったからかもしれません。この夏で

引退した先輩の影響はとても大きかったと思います。私達はこれからもよい模範を引き継いで頑張っていきたいと思います。そして、いつも暖かく応援して下さるOB・OGの先輩方に感謝しています。次の九山も良い報告が出来るよう頑張ります。

正直言って私自身、大学に入ってこんなにバレーが出来るとは思っていませんでした。でも、本当に良いメンバーに恵まれて、常に向上心をもってやる事が出来ます。たくさんの問題を、みんなで考えて意見を言い合って解決していく時、技術的にも精神的にも強くなっていくのを感じます。部員の半数は大学からバレーを始めていますが、初心者も経験者も、いろんな才能を持っていて、周りに良い影響を与えていると思います。本当にいつも学ぶことがたくさんあります。この貴重な経験が出来ることに感謝して、これからも頑張っていきたいと思います。



医学部ハンドボール部

こんにちは。ハンドボール部です。

ハンドボール部は2月に復活をとげ、先日9月29日に初の公式戦に出場しました。結果は惨敗でしたが、それをバネに、次の1勝を目標として練習しています。

現在の部員は部長の3年次當山千巖をはじめ男子15名、女子4名、マネージャー1人の総勢20名で活動しています。

活動時間は火曜日19時から20時半、土曜日8時半から11時半、場所は医学部体育館および、医学部運動場です。

医学部の男子部員はもちろん、女子部員も、マネージャーも随時募集しています。

〈ハンドボール、楽しいですよ!〉

顧問：佐藤良也 (寄生虫学教授)

部長：當山千巖 (医学科3年次)

活動時間：火曜19時～20時半 (体育館)

土曜8時半～10時半 (体育館)

10時半～11時半 (運動場)

部員数：20名



医学部水泳部

今年の西医体は…、女子総合2位！いつになく、盛り上がりました。参加者は、男子12名、女子7名。正式に女子のリレーが組めるのは久しぶりでした。このメンバーなら「決勝に行けるかもしれない」と思っていました。結果はそれ以上！女子は3つのリレー種目に出て、2位、3位、5位となる快挙を達成しました。選手が頑張ったのはもちろんですが、みんなの応援があったからこそだと思います。4人でのぼった表彰台。そこからみえる部員の笑顔は、一生忘れないと思います。リレー以外の種目でも、部員全員が頑張っていました。初心者で25Mも泳げなかったのに200Mを泳ぎきった人や、男子800Mリレーでしっかりと自分の役目を果たした人、自己ベストを更新した人、初めての試合なのに幹部としてみんなをまとめてくれた人、そして、応援に来てくださったOB

の方、多くの人の努力と優しさがあったからこそ、こんなに素晴らしい試合になったのだと思います。来年も良い結果が残せるよう、水泳部一同頑張ります。これからも応援よろしくお祈いします。

顧問：石田 肇（解剖学第一 教授）

部長：橋岡 寛恵（3年次）



熱帯医学研究会

OB・OGの先生方、こんにちは。琉球大学医学部 熱帯医学研究会（熱医研）です。

今年の熱医研には非常に熱い情熱とパワーを秘めた元気な1年生が大勢入部し、これまで以上に活気にあふれた活動を展開していますのでご紹介させていただきます。

新歓イベントがひと段落した6月、熱医研10数年来の夢であったラオスからの医学生受け入れを実現することができました。8月には20年以上続く恒例のタイ研修、ハンセン病の国立療養所を訪問する宮古南静園研修に加えて有志によるカンボジアスタディツアーを行い、海外で活躍する日本のNGO団体の活動を見学しました。合計で20名弱の部員が沖縄本島を飛び出して多くの人に出会い、たくさんの刺激を受け、自分の覚えた感動をいかにして今後につなげていくか、人に伝えていくかを真剣に考えているところです。特にカンボジアスタディツアーは国際協力に興味のある全学の学生向けにも報告会を開きます。

10月には毎年恒例となった琉大祭への『国際交流カフェ 豚の助』の出店を果たしました。台風直撃か！？という不安な天候ではありましたが2日間ともたくさんのお客様に来ていただき、タイラーメン・グリーンカレー・アジアンスイーツ4種全て完売という大成功に終

わりました。琉大祭を通して学年の垣根を超えて、部員間の結束もさらに深まったように思います。さらに10月後半には今年2度目となるタイ・チェンマイ大学の3年生10人を受け入れ、新たな友情を築きました。

部員も多く、それぞれ求めていることや考えていることは違いますがそれぞれがお互いの人間性に惹かれあって成り立っているそれが熱医研です。間もなく幹部交代を控え、新しい熱医研が始動します。これからも私たちの活動を温かく見守っていただけたらと思います。

顧問：外間 実裕（泌尿器科 講師）

部長：園田 梨絵（4年次）



書道部

書道部部長の平良です。今回は、書道部の活動内容と、今年度の琉大祭の催し物について説明させていただきます。

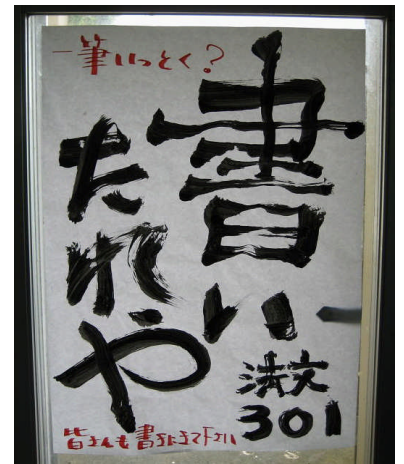
私達書道部は、毎週火曜、午後5時から、多目的ホールで活動しています。活動といっても、みんなで集まって和気あいあいと字を書いているだけです。

これだけ聞いてると、何がいいのか良く分からないかもしれませんが、これがやってみると意外と集中できて中々良いものです。

医学部はとかく人間関係で疲れる事も多いので、ただ字を書く事に集中して、小憎たらしいあいつの事を忘れられる瞬間があるのは、精神衛生上、役に立つ事うけあいです。

今年の琉大祭では、初めての参加という事もあって、良く勝手が分からなかったのも、とりあえず面白そうという理由で、来てもらった人に好きな言葉を書いてもらって、部屋全体を1000枚の半紙で埋め尽すパフォーマンス

ンスをしてみました。これは本当に楽しかったです。ある人はリラックスして書いてみたり、またある人は「金」の一文字を書いてみたり、本当に企画した私達も楽しめた、いい琉大祭でした。ちなみに、私が一番思い出に残った言葉は「デラベっぴん」です。



こんな感じで、凄く適当に部活動しているので、興味のある方、気軽に来てください！

顧問：増田 昌人（がんセンター 講師）

部長：平良 隆行（5年次）

〈お国自慢〉

全国津々浦々から人が集まる我らが琉球大学。せっかくの異文化交流の場なのに、他県のことについてあまり知らなかったりしませんか？このコーナーは、内地出身者に自分の出身県について熱く語ってもらい、バトン形式で全国を一周しよう！という企画です☆
まずは発案者の出身県、島根県から！

『島根は鳥取の左側です！』

4年次 川上 智子

突然ですが皆様、島根県の位置をご存知ですか？

そう、四国地方の上（北）側の中国地方の、広島県の上側→島根県。福岡県の右側の山口県のさらに右側→島根県。そして、鳥取県の左側→島根県です！

実は今回、同窓会会報誌にこの『私のお国自慢』なるコーナーを立ち上げさせて頂いたのも、偏に皆様に島根県の位置を知って頂きたかったからに他なりません。

と言うのも、今年5月にNHKにて『ワースト脱出大作戦』という番組が放送され、その番組の中で、私の出身県である島根県が『県の位置が分からないワースト1』として取り上げられていたのです！確かに、沖縄に比べてからというもの、「出身は？」『島根県です。』『あー、砂丘のあるところでしょ？』という類の会話を何度繰り返した事か…。そこで、

番組内で製作していた『島根Tシャツ』(写真)が欲しい！という思いを綴って送ったところ、数日後、NHK松江放送局からハガキに対する返事



が届きました！そして先日、NHK松江放送局から今度は『NHK「ワースト脱出大作戦」ご協力のお願い』という手紙が届きました。それは、12月放送予定の「ワースト脱出大作戦・第2弾」では、第1回の放送後に集まったアイデアや具体的行動を取り上げながら島根県民の底力と郷土愛を紹介したいということで、島根県にとって大切な期間である神在月（出雲大社に八百万の神が集まる月）＝10月に重点的に「島根の場所を知ってもらおうキャンペーン」を実施し、新たに島根の場所を認知した人数を発表したいというものでした。

…という訳で、期間外ではありますが、この場を借りて同窓会会員の方々に是非島根をPRしたいと考えたのです。

皆様ご存知の通り、島根県は古代出雲神話の舞台として、出雲大社をはじめ数々の遺跡や文化遺産が残る地です。また、今年6月に世界遺産登録された石見銀山（大田市）や、『島根の弁護士』『砂時計』などのドラマで島根を知った方も多いのではないのでしょうか？最近では、某携帯会社のCMで『島根のオジサマ』として、前述の水族館『アクアス』のシロイルカが登場したりもしています。時代の風はまさに今、島根に吹いているのかも…?!確かに島根県には若者向けの観光スポットは少なく、交通機関も不便なので（島根・鳥取には新幹線が通っていません…）、足を運ぶ機会も少ないかと思いますが、広がる田園風景や古い町並み、人の温かさを含めて、「古き良き日本」を求めるには最適の場所かと思います。島根にお立ち寄りの際には、是非自分まで一声お掛け下さい。島根で一番美味しい出雲そばのお店を貴方だけにご紹介しますので…♪

『私のお国自慢』、次回は福島県の魅力について大いに語ってまいります。乞うご期待!!

学生近況報告

〈とっても素敵なお22期生のみんな〉

塩出 健人（6年次）

22期生年次長の塩出健人と申します。早いもので、卒業まで後四ヶ月足らずとなりました(敢えて国試まで三ヶ月足らずと言わないのは現実逃避の気持ちの表れ？)。この時期になると沢山の思い出がよみがえってくるものです。

私が初めて年次長をやらせていただいたのは三年生の時で、それから微力ながらも学年の代表として現在も年次長を任されています。このように長いこと学年を見ていると、年を重ねる度にチーム力が上がっていくのが手に取る様に分かります。試験の前は色々な人のノートに随分とお世話になり、掲示板に合格者が貼り出された時は、自分の合格もさながら皆一緒に合格したことが何より嬉しかった。

年次長というポジションは以外に地味だが雑多である。追試の日程調整、各種アンケート実施、学校紹介文の作成などなど。しかし私はこの役職を勤めさせていただいたことに心から感謝し、また誇りに思っている。22期生には約120人の生徒がいるが、私はその全ての人と会話を交わしたことがあり、皆よく知っている。文字通り友達百

人できました。うちの学年には比較的年長者が多く、私のいい所を褒め、力が足りないときは惜しみなく協力してくれた。沢山の良き後輩たちにも恵まれ、いつも元気をいただいている。琉大22期生の一員であったことは私のかけがえのない財産だ。

ここでマッチングについて少し書こうと思います。ベテランの先生方はご存知ないかもしれませんが、今は卒業したら研修先がマッチングによって決定されます。これは簡単に言うと、全国にある研修指定病院を学生が個人で受験し、その結果が全国同時に発表されるというものです。この結果が10月中旬に発表されました。琉大を含めて沖縄に残る人、地元に戻る人、都市部に向かう人など各地に散らばり少し寂しい気もしますが、全国で同期の琉大生が活躍することに期待したいです。

最後になりましたが、我々六年生はこれから医師国家試験という医学生最大の難関に向かいます。皆さん応援よろしくお願いいたします!!

5年生の近況について

手登根勇人（5年次）

こんにちは。毎回お馴染みの五年次の手登根です。

ようやく夏の日差しも和らいで北風が吹き始め、ここ沖縄も肌寒い季節になってきました。今回も五年生の様子をみなさんに伝えるべく実習の昼休み時間をとって筆を走らせています。

ようやくポリクリも折り返し地点を過ぎ僕たち五年生にも心に余裕が出たように思えます。実習では検査や画像などの勉強はもちろんのこと、将



来医師になったときに大切なコミュニケーション能力も養うことができます。毎日が新鮮で、僕は乾いたスポンジのように色々なことを吸収しています。この実習もあと半年かと思うと何だか寂しくも思えます。また、私事ですが、僕も他のみんなに遅れを取って国試の勉強を始めてみました。自分が最近勉強したことが実習で経験できると実感を持って学ぶことができました。こんなことならみんなのようにもっと早くから勉強に取り組んでいればとも思いました。しかし後悔してもなにもなりません！勉強も遊びも後悔しないようにしっかりやっていきたいと思えます。きっと他の同級生も同じ気持ちだと思います。

学生生活も残すところ16ヶ月となりました。無事に国試を合格できるように頑張っていきたいと思えます。これからは寒くなるので、試験を控えている六年生の先輩方をはじめみなさん風邪をひかないようにしっかり体調管理をして下さい。ではそろそろ午後の回診に行きます。



4年次後期について

佐藤友香（4年次）

4年次後期の主なイベントは、何といてもポリクリ移行試験、CBT（Computer Based Medicine）、OSCE（客観的臨床能力試験）の3つとなります。

ポリクリ移行試験は、9月・10月に1科目ずつ、11月には2科目が終了したところです。そして、引き続いて、12月には3科目、1月には7科目と、次から次へとやってくる試験の連続におののいているところです。

一方、CBTは前期からCBT対策委員会を中心として稼働し始めていました。夏休みからは希望者を

対象にビデオ講座の受講も始まり、先日の11/17もしくは11/25に、TECOM模試を学年全員が受験しました。模試の結果は、準備不足の人、手応えを感じられた人と、人それぞれであったとは思いますが、2/13・14実施予定のCBT本番に向けてのモチベーションを高める良い機会になったことと思います。

OSCEに関しては、ポリクリ移行試験を終えた2月からBPE（基本的身体診察法）や医療面接の講義・ロールプレイが始まります。まだ具体的な動きは特にありませんが、先日各人が聴診器を購入し、いよいよポリクリもすぐそこではないかと実感が湧いてきたところです。

これら3大イベントのほか、4年次から、国試対策委員会（以下、国対委員）が選出され、少しずつ動き始めました。6年次の国試をサポートする国対委員は5年次を中心としたものですが、ポリクリで忙しい5年次をサポートし、実働部隊として動くために、4年次からも選出されます。

このように、様々な試験・イベントが目白押しの4年次後期ですが、学年全体で協力し合いながら乗り切っていきたいと思えます。



3年生の近況について

喜友名しのぶ（3年次）

私達3年生は勉強や部活、バイトなどでそれぞれ充実した学生生活を送っています。3年生になって気づいたことは、講義が今までと比べてよ

2年生の近況報告

毛利 康一 (2年次)

り臨床的なものばかりであるということでした。後期からは前期から続いた病理学に加え、薬理学、保健医学を勉強しています。あと、これらの基礎系の講義に加えて臨床系の講義が始まりました。実際に現場で働いている先生の話聞き、教えてもらうことは、自分達は医者になるための勉強をしているということが実感でき、とてもためになります。

この前まで私達3年生が勉強で特に力をいれていたことは、病理学の授業で行うACSでした。ACSとは、各グループに分かれて亡くなった患者さんの剖検結果や臨床所見、病理標本から、患者さんの体の中で何が、どういう流れで起こって亡くなってしまったのかを自分達で調べたり考えたりして、最終的にパワーポイントでまとめて発表するのですが、授業時間以外も昼休みや放課後に集まって話し合ったり調べ物をしたりなど、各グループ一生懸命でした。私の場合は取り組んで最初の方はわからないことだらけで、知識があまり頭に入っていないことに気づきましたが、文献を調べたり、グループのメンバーに助けをもらったりお互いに話し合うことで、だんだんと形になってきて無事発表を終えることが出来ました。病理学についてはACSを通して理解できた部分も多く、みんなで取り組んだのでいい思い出になったと思っています。

4月からは学士入学の人達が編入してきて人数も増え、にぎやかになりました。学士編入の人達は2年生と3年生の講義を1年間でやらなければならない、また、夏休みも実質休める期間は他の3年生よりもだいぶ短くて、とても大変そうでした。しかし、皆さんやる気が高く、豊富な勉強量に驚かされます。



これからも試験が続きますが、寒さに負けずがんばって乗り切っていきましょう！

医学科同窓会の皆様、こんにちは。沖縄にも冬の足音が聞こえてきましたね。さてさて、我々2年生の近況報告をさせていただきたいと思います。

2年次の後期から専門の授業が本格的に始まりました。一年前、教養科目に退屈していた日々とは違って、毎日忙しく過ごしています。何がつらいかといえば、朝がつらい。そして2週間に一度のテストがつらい。おそらく先輩方も経験された道であることを思えば、泣き言ばかり言っていられないのですが、医学科の授業とはこんなにハードなものなのかと少し辟易しているところです。肝心の専門科目の内容ですが、今は、解剖学、組織学、生化学、生理学、発生学、医科遺伝学を学んでいます。個人的にはどれもエキサイティングなものばかりです。特筆すべきは、やはり解剖学実習が始まったことでしょう。

百聞は一見に如かず、とはまさにこのこと。人体構造は非常に複雑であること、そして合目的であることを思い知らされます。このような認識は、教科書を読むだけでは決しておこりえないものです。実習を通して立体的かつ、マクロな視点から観察することで、人体構造を頭の中でイメージできるようになりました。また、実習を通してもう一つ大事なことを学んでいます。それは「命」というものを学んでいるという実感でしょうか。我々医学生のために御献体してくださった方への感謝と尊敬の念はやみません。自分の体を医学のために提供してくださる献体者の御意志から学ぶことは数多くあります。

ただ、僕のような浅はかな人間が、意味を深く理解することなく「命」という言葉をここで使用することには抵抗があります。実際に、実習標本を初めて見たときはやはりショッキングでしたが、日がたつにつれて「死体」に慣れている自分対

して違和感を感じざるを得ません。この経験は、医者たるものcool head, warm heartの精神が必要であることを再認識させてくれました。科学者の冷静な目と人間の温かい心の両方を持ち合わせた医師になりたいものです。いやはや、なんとも硬い文章になってしまいましたね。ともかく、専門科目に悪戦苦闘しながらも日々精進している2年生の僕たちです。



医学科1年、後期が始まりました

浅野 秀樹（1年次）

平素よりお世話になっております、医学科1年生です。

我々1年生にとって、初めての長い夏休み、受験勉強と前期の緊張から開放されました。運転免許の取得、医学セミナーへの参加、大学では会えないだろう人々と出会い、皆それぞれ見聞を広げながら、有意義に過ごすことが出来ました。

後期の始まりは、琉大祭です。琉大祭はエイ

サー太鼓が威勢よく響く、沖縄の趣きあふれる素敵なお祭りでした。1年生は皆で、「ひろしのお好み焼き、けんすけコーヒー」の模擬店を造りました。さすがは医学科です、お好み焼き、コーヒーもこだわりの商品、仕込みの段階から製造工程は徹底し、こだわりがOKを出すまで旨味材料と生地をかき混ぜなければなりません。ドリップコーヒーでは、お湯の対流を起こし、この穴からドリップさせる、違う穴ではだめ、「この勢いで勉強して来たのか。合格しないわけがない。」と思わせるこだわりです。これなら大丈夫、友人にも自信を持ってお勧めできます。結果は予想通り、時間前に完売御礼の大盛況でした。そして、1年生が皆で一緒に作業したという体験が、何より変え難い物となりました。やはりこの雰囲気は人に伝わるようです、「医学科いいなー。」と友人から言われます。これは心の中の自慢です。本当にすばらしい琉大祭でした。

授業で唯一、医学的な経験が出来るのは医学概論B、救急車実習です。医療現場の前線に立つことで、夏休みの開放感は一気に引き締め、再び勉強への姿勢が正されました。様々な背景をもつ人たちと接し、人間を深く、さらにその向こう側まで深く理解できる、その様な教養の大切さを覚えます。今の自分に何が出来るのか、何も出来なそうな自分に気づき、昨日出来なかった事が今日出来る、そんな小さな積み重ねを経る、遠いようで近い医師への道程を、この後期もみんなですんでいます。

今後とも、医学科1年を宜しくお願い致します。

（浅野秀樹、佐々木謙輔、新垣秀樹、林優子、こだわりの味噌鍋を囲みながら）

昇 任 H18.12.1 准教授 中 村 宏 治 救急医学

訃 報

正会員 (2期生) 兼 島 瑞 枝 (元沖縄県庁厚生課職員保健管理センター主幹 (精神科医))
2007年8月8日ご逝去されました。

謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りするとともに、ご家族のご多幸をお祈り申し上げます。

お知らせ掲示板**第6回琉球大学医学部医学科同窓会
鹿児島支部会のご案内**

同窓会の皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて6回目となりました琉球大学医学部医学科同窓会鹿児島支部会を開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

年明け早々に同窓会名簿をもとに往復はがき、E-mailでご連絡いたしておりますが、お近くで連絡が届いていない同窓生がいらっしゃる場合、あるいは鹿児島県近隣の方で参加されたい方は代表世話人までご一報ください。

日 時：平成20年3月8日 (土) 午後7時
場 所：ホテル・クレストイン鹿児島2階 料亭
竹千代本館 鹿児島市山之口町4-20
TEL 099 (222) 0505

会 費：7,000円

〈代表世話人〉 是 枝 快 房 (1期生)

独立行政法人国立病院機構 南九州病院 呼吸器内科
鹿児島県始良郡加治木町木田1882
TEL 0995-62-2121 FAX 0995-63-1807
E-mail : yoshifus@f3.dion.ne.jp

事務局からのお知らせ**会員の皆様へ会費納入のお願い**

会員の皆様には同窓会会費納入に御協力いただきありがとうございます。同窓会活動は、医学科新入生および正会員の皆様からいただく年会費によって成り立っております。今後意義のある活動を維持・継続させていくには、さらに多くの皆様の御理解と御協力が必要となります。しかし会費納入率が年々低下しています。このままでは同窓会の存続が危ぶまれ、本会の諸事業を施行する上で重大な支障を来すこととなります。

今回も年会費の振込み用紙を同封しておりますので、振込み用紙に印刷している各会員個人の納入状況をご確認の上、会員の皆様には至急納入のご協力をお願いいたします。また、同時に銀行口座振替(銀行引落し)の手続きを、ぜひお願いいたします。

編 集 後 記

今回の同窓会報誌「南風」は15期生が編集を担当させて頂きました。15期生は評議員会の出席率も悪く、したがって同窓会の中身をほとんど分かっておらず、編集の依頼があった時は正直どうしようかと思いました。しかしご多忙中にもかかわらず、原稿執筆の依頼に対し皆快く引き受けてくださり、本当に感謝しております。講座紹介をして下さいました菅野善一郎先生(高次機能医科学講座 精神病態医学分野 医局長)、開業報告をして下さいました徳田毅先生(とくだ心療内科 9期生)、近況報告をして下さいました玉城稚奈先生(放射線医学 病棟医長 15期生)に感謝申しあげます。又吉宣先生は同じ編集者と

いう立場でありながら、医局紹介までしていただき、本当にお疲れ様です。さらに編集作業にあたり、いろいろと配慮して下さいました同窓会事務局の上原様にも感謝申し上げます。我々の作業が遅々として進まず、心労がたたり入院されてしまったのでは……と心苦しく思っております。無事退院されてなによりです。このように皆様のご協力があり、何とか同窓会報誌を仕上げることができました。これからは15期生も同窓会の活動にもう少し参加していきたいと思っております。最後になりましたが、同窓会員のご多幸を願い、編集後記とさせていただきます。

(15期生 吉川仁)